

中小企業の景気動向調査

第153回「中小企業の景気動向調査」をお届けいたします。

調査要項

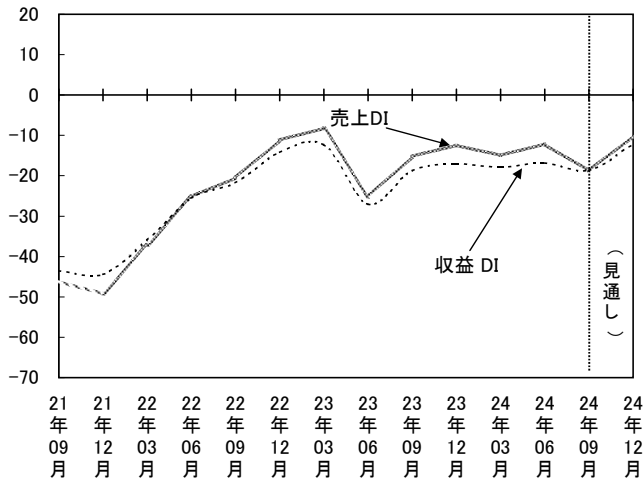
調査時点	平成24年9月上旬
調査対象期間	平成24年 7月～ 9月実績 平成24年10月～12月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,825 社(大阪府下ならびに尼崎市)
回答企業数	1,307 社
回答率	71.6%
調査方法	調査票郵送及び聞きとり調査
分析方法	アンケート調査による各質問項目で「増加」したとする企業数が全体に占める構成比と「減少」したとする企業数の構成比との差（DI）を中心にして分析を行いました。

アンケートの内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4人	71	50	118	54	42	59	1	48	443	33.9%	33.9%
5～10	103	56	32	12	75	45	12	16	351	26.9%	60.7%
11～20	104	31	9	9	35	28	18	6	240	18.4%	79.1%
21～30	37	11	5	6	17	12	5	4	97	7.4%	86.5%
31～50	33	7	12	7	6	9	11	3	88	6.7%	93.3%
51～100	21	8	5	2	4	10	5	2	57	4.4%	97.6%
101～	12	4	3	1	1	8	2	0	31	2.4%	100.0%
計	381	167	184	91	180	171	54	79	1,307	100.0%	
構成比	29.2%	12.8%	14.1%	7.0%	13.8%	13.1%	4.1%	6.0%	100.0%		

輸出減少！進むデフレ！迫るチャイナリスクの影響！

【売上受注・収益DIの推移】



◆迫るチャイナリスク◆

売上DIはマイナス18.8（前回比-6.7ポイント）、収益DIはマイナス18.6（前回比-1.8ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。

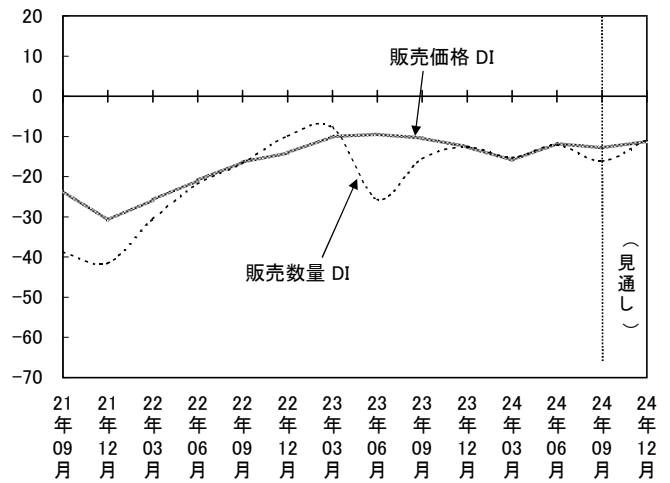
平成24年10-12月期は、売上DIで8.7ポイント・収益DIで6.4ポイントともに上昇すると予想しています。

円高の影響や中国経済の停滞から、近畿圏は、輸入が輸出を上回り、関西の製造業にも影響があると思われます。

中国との経済関係が深い関西では、今後、チャイナリスクの高まりが関西経済に悪影響を及ぼすことが懸念されます。

平成24年10-12月期の見通しでは、年末商戦に期待する姿が伺えます。

【販売価格・数量DIの推移】



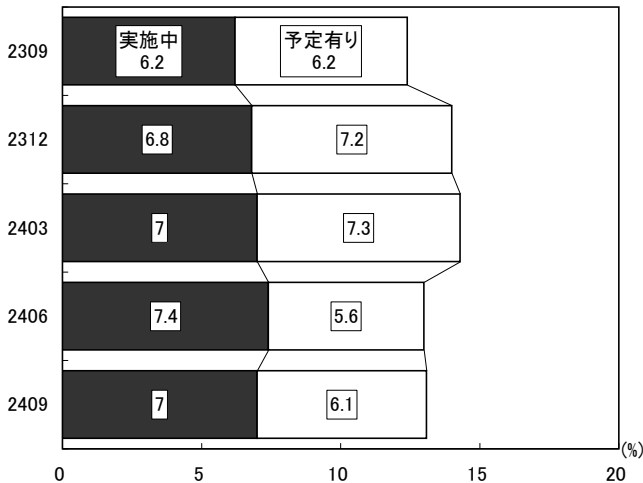
◆終わる政策効果◆

販売価格DIはマイナス12.8（前回比-1.0ポイント）、販売数量DIはマイナス16.1（前回比-4.0ポイント）となり、販売価格・販売数量DIともに下落しました。

平成24年10-12月期は、販売価格DIが1.6ポイント、販売数量DIが5.3ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

製造業、不動産業以外では、平成24年4-6月期に比較して、価格・数量DIともに下落しました。エコカー補助金や住宅エコポイントは終了し、今後、新たな景気対策が求められています。

【設備投資】

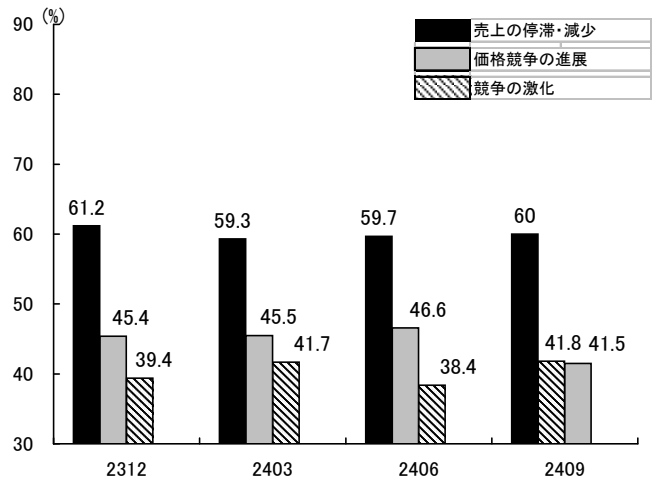


◆業種間で分かれる設備投資意欲◆

「実施中」は7.0%（前回比-0.4ポイント）、「予定有り」は6.1%（前回比+0.5ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は13.1%です。

製造業やサービス業では、比較的設備投資に積極的な企業もありますが、小売業では設備投資意欲が冷え込んでいます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆少ないパイの奪い合い◆

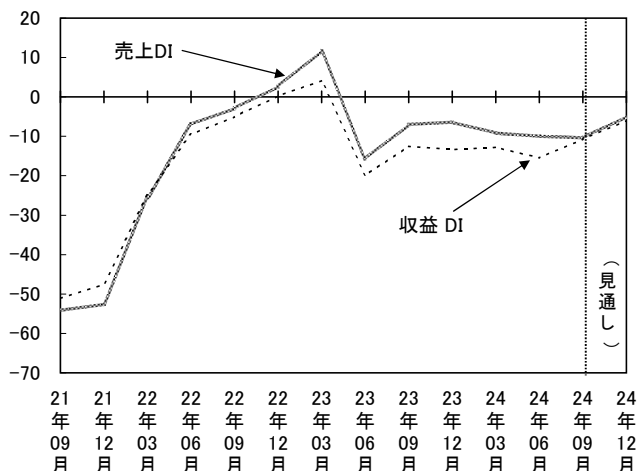
第一位は「売上の停滞・減少」が60.0%、第二位は「競争の激化」が41.8%、第三位は「価格競争の進展」が41.5%となりました。国内景気の低迷を背景に、「売上の停滞・減少」が最大の問題点となりました。近畿圏の貿易では、輸入が輸出を上回っており、関西の製造業の売上高もやや下落傾向にあります。また、少ないパイの奪い合いで、価格競争だけでなく売上の確保そのものの競争が激しくなり、「競争の激化」が第二位になったと思われます。

関西では、復興需要の効果がほとんど期待できず、景気の回復が遅れています。また、10月からの食用油、乳製品、小麦などの値上げや、地球温暖化対策税（環境税）の導入などが、さらに景気回復の足かせになることが懸念されます。平成24年10-12月期の見通しでは、年末商戦に期待して景気は上向くと予想しています。（中小企業診断士：平山）

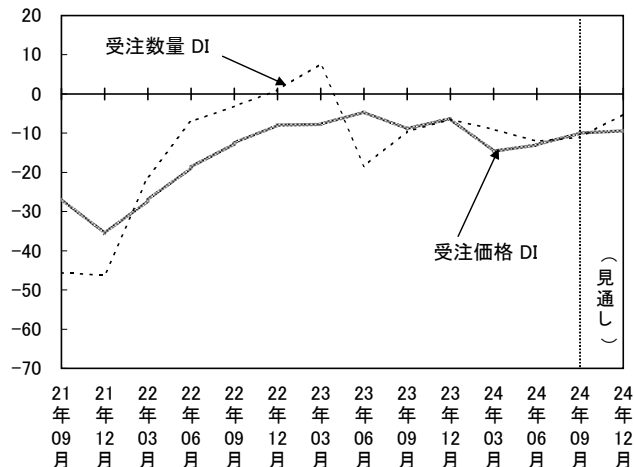
製造業 (381社)

売上DI減少！ 懸念されるチャイナリスクの影響！

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆懸念されるチャイナリスクの影響◆

売上DIはマイナス10.4（前回比-0.4ポイント）、収益DIはマイナス10.7（前回比+4.7ポイント）となり、売上DIは下落し、収益DIは上昇しました。平成24年10-12月期は、売上DIが5.4ポイント、収益DIは4.7ポイント上昇すると予想しています。発注先が、計画停電に備えるため発注量を調整し、売上が減少した企業があります。また、8月の貿易概況では、近畿圏は7月に続き輸入量が輸出量を上回りました。特に、対中国輸出は3月以降連続6ヶ月の減少となりました。

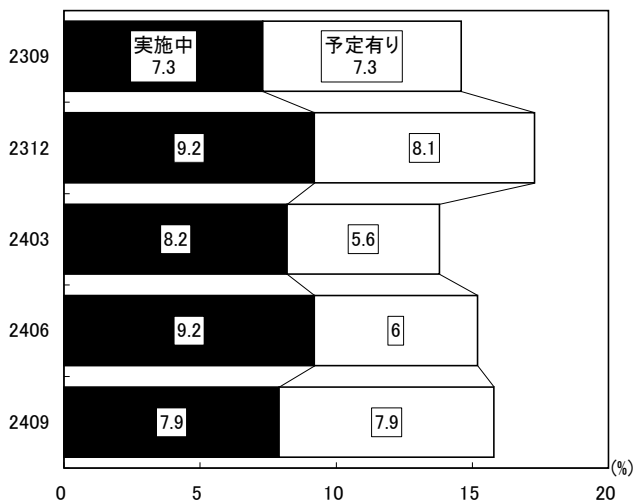
中国に生産拠点を置く製造業では、反日運動の煽りで、中国国内へ持ち込む部材品が、税関で長時間の検査を受け、納期に支障がでる企業も一部では出始めています。今後、反日運動が長期化した場合、関西経済に及ぼす影響が懸念されます。

◆品目で変わる受注状況◆

受注価格DIはマイナス10.0（前回比+3.0ポイント）、受注数量DIはマイナス11.0（前回比+1.0ポイント）となりました。平成24年10-12月期は、受注価格DIが0.6ポイント・受注数量DIは5.8ポイントともに上昇すると予想しています。特に、半導体関連の製造業では、輸出量が減少しています。科学光学機器（レンズや液晶画面用の偏光板フィルムなど）や金属加工機械関連の製造業の輸出は底堅いようです。震災復旧のゴミ処理場で使う養生用フェルト製造業では、受注が好調な企業があります。

平成24年10-12月期へ向けて、主に受注数量DIが回復すると予想していますが、製造品目によっては受注数量が減少することを予想しています。

【設備投資】



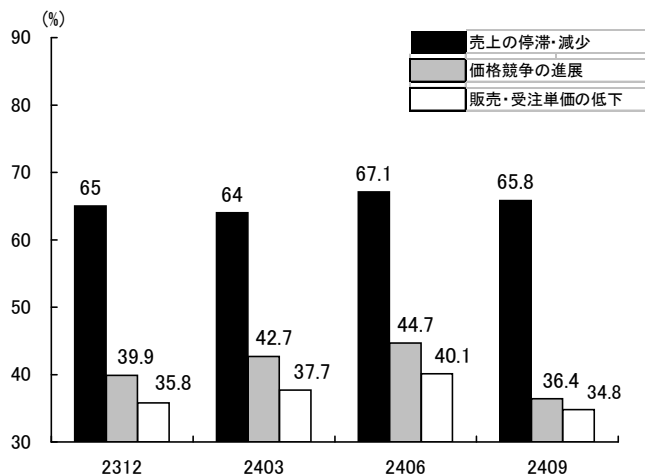
◆要求品質で分かれる設備投資意欲◆

「実施中」が7.9（前回比-1.3ポイント）で、「予定有り」は7.9（前回比+1.9ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は15.8%です。

高度な技術が要求される企業では、「機械等の新設・増設」や「機械等の保守・更新」が増加しました。

製造業では、機械の老朽化や要求品質の高度化などの必要に迫られ、やむなく設備投資を行う企業も、一部にはあります。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆「売上の停滞・減少」が最大の問題点へ◆

第一位は「売上の停滞・減少」が65.8%、第二位「価格競争の進展」が36.4%、第三位「販売・受注単価の低下」が34.8%となりました。

経営上の問題点で、「売上の停滞・減少」が他の問題点を大きく引き離して、圧倒的に多くなりました。「エコカー補助金」の受付けは、想定ほど盛り上がりませんでした。

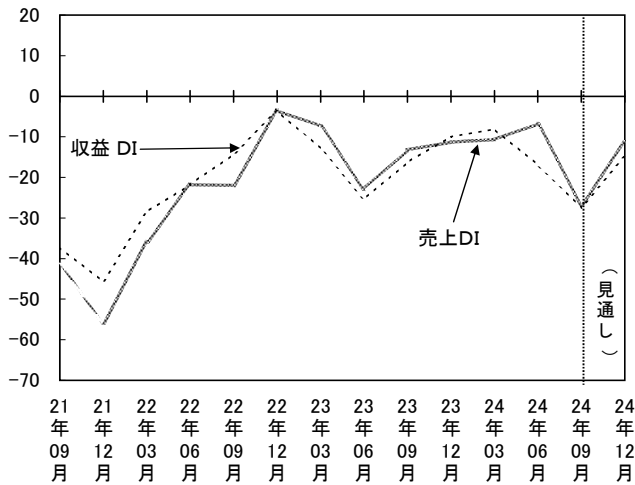
円高による影響から輸出が減少し、受注そのものの確保が困難となりつつあります。今後さらに反日運動から、中国向け輸出が減少することも懸念され、製造業では当分、「売上の停滞・減少」が最大の問題点として推移すると思われます。

(中小企業診断士：尾崎、小阪、芝田、吉田、楠)

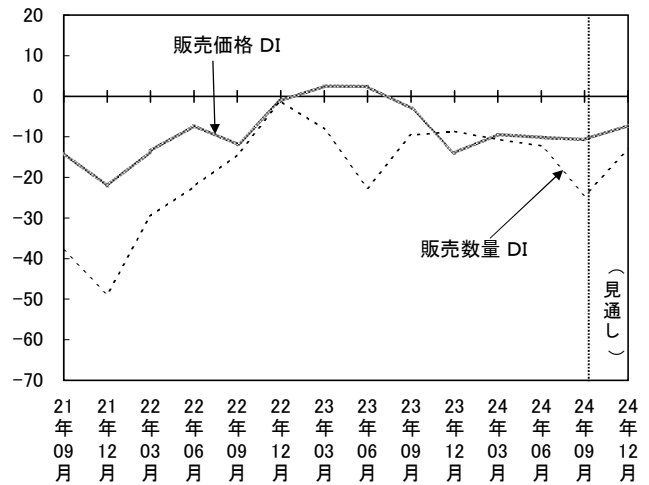
卸売業 (167社)

販売数量大きく下落！！進む直接取引！！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆進む直接取引◆

売上DIはマイナス26.8（前回比-20.0ポイント）、収益DIはマイナス27.5（前回比-10.6ポイント）となり、売上DI・収益DIは大きく下落しました。平成24年10-12月期は、売上DIが15.5ポイント・収益DIが12.6ポイントともに上昇すると予想しています。

卸売業は、製造業と小売業の板ばさみで収益環境は厳しさを増しています。インターネットの普及にともない、消費者が生産者から直接購入するケースが増加し、今後も生産者と小売業者の直接取引は、増加すると思われます。

しかし、円高メリットを活かして商品を安く輸入し、売上高や収益を増加させている企業も一部にはあります。

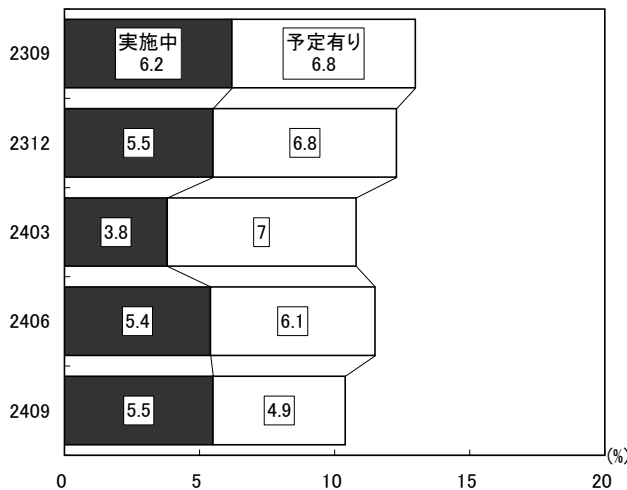
◆大きく下落する販売数量◆

販売価格DIはマイナス10.7（前回比-0.6ポイント）、販売数量DIはマイナス24.4（前回比-12.2ポイント）となりました。平成24年10-12月期は、販売価格DIは3.5ポイント・販売数量DIが11.2ポイントともに上昇すると予想しています。仕入価格の上昇を、販売価格に転嫁できない企業が増加し、収益環境は悪化傾向にあります。

ビニールやレジ袋を扱う卸売業では、エコバッグの普及や同業他社との競合により、赤字になる企業があります。

一方、ホームセンターや100円ショップに商品を販売する卸売業で売上好調な企業がありますが、販売は休日前後に集中している模様です。

【設備投資】

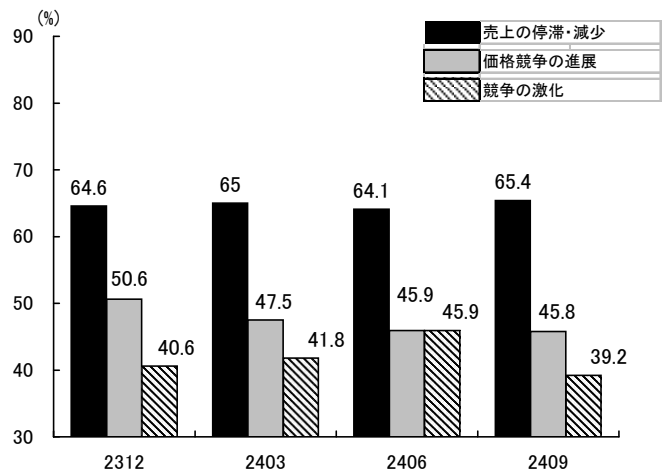


◆一進一退の設備投資◆

「実施中」が5.5%（前回比+0.1ポイント）、「予定有り」は4.9%（前回比-1.2ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は10.4%です。

卸売業の収益環境が厳しさを増し、設備投資は必要最低限に止めており、過去1年間で最も設備投資意欲は冷え込み、回復するには時間がかかりそうです。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆懸念される収益の悪化◆

第一位は「売上の停滞・減少」で65.4%、第二位は「価格競争の進展」で45.8%、第三位は「競争の激化」で39.2%となりました。

円高のメリットを享受して、売上や収益が増加する企業も一部にはあります。

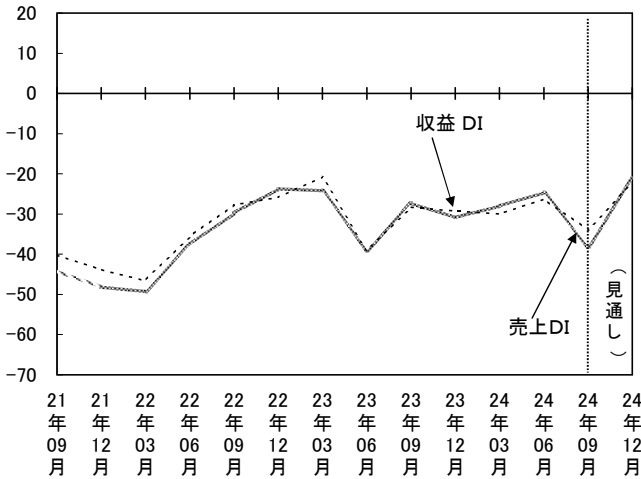
商品の流通経路の短縮化は、今後も進展が予想され、同業他社との価格競争と相まって、収益環境の悪化が懸念されます。

(中小企業診断士：兵庫、尾崎、楠)

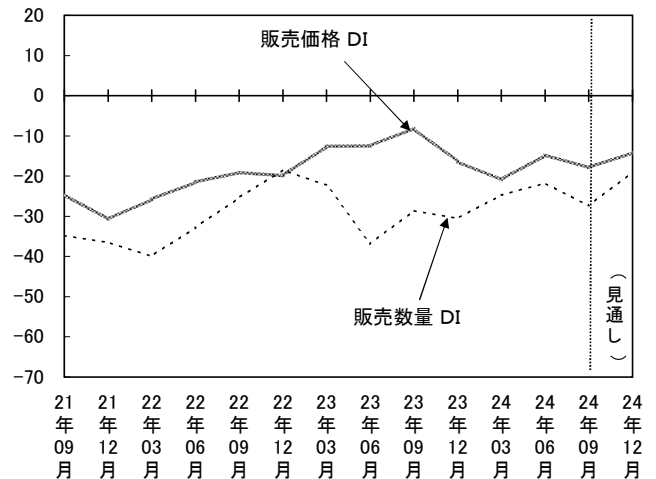
小売業 (184社)

必要なものだけをより安く！節約志向進む！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



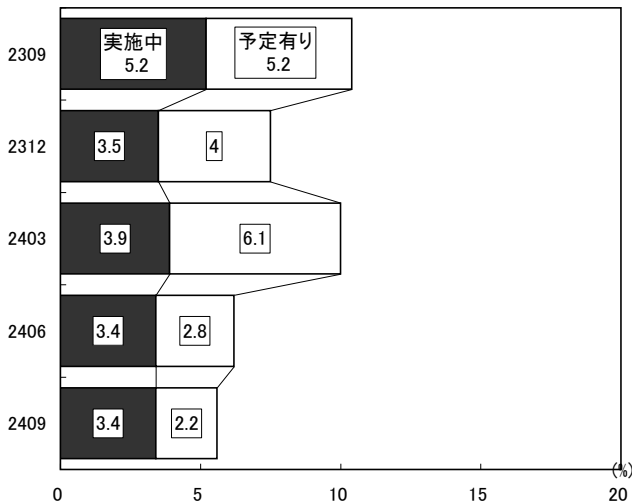
◆価格重視の消費者◆

売上DIはマイナス38.2（前回比-13.5ポイント）、収益DIはマイナス33.9（前回比-7.6ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。
 平成24年10-12月期は、売上DIが17.0ポイント・収益DIが11.5ポイントともに上昇すると予想しています。
 小売業は、デフレ経済の長期化や個人消費の低迷、大型小売店との競合など、厳しい状況におかれています。特に、家電小売業では、大手家電量販店の低価格攻勢に遭い苦戦しています。また、食品を扱う小売業では、消費者の節約志向が再び高まっています。
 平成24年10-12月期の見通しでは、年末商戦に向けて売上・収益DIの回復に期待しています。

◆必要な商品だけをより安く購入◆

販売価格DIはマイナス17.9（前回比-3.2ポイント）、販売数量DIはマイナス27.4（前回比-5.7ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに下落しました。平成24年10-12月期の見通しは、販売価格DIが3.7ポイント、販売数量DIが8.4ポイントともに上昇すると予想しています。衣料品を扱う小売店では、猛暑で夏物衣料は健闘しました。しかし、厳しい残暑で秋物衣料は売上が伸び悩んでいるようです。
 家電を扱う小売店では、エコポイントの終了後、テレビはほとんど売れませんが、節電対策でエアコンや扇風機などの売上が好調であった企業も一部にはあります。
 今後、消費税法案の成立や復興増税などで家計への負担が増加する影響が、すでに消費者の行動に出ていると思われる。

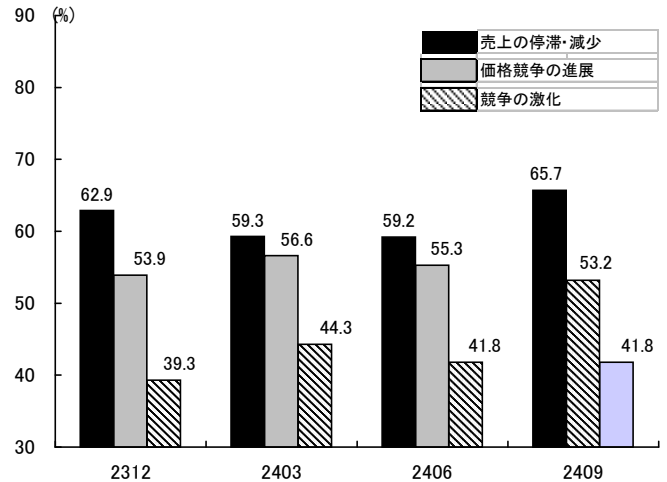
【設備投資】



◆落込む設備投資◆

「実施中」は3.4%（前回比±0ポイント）、「予定有り」は2.2%（前回比-0.6ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は5.6%となりました。
 9月期、売上・収益DIともに大きく落ち込み、過去1年間で設備投資意欲は、最も落ち込みました。
 売上や収益が回復しない限り、設備投資の回復は、当面難しいと思われる。

【経営上の問題点】(複数回答)



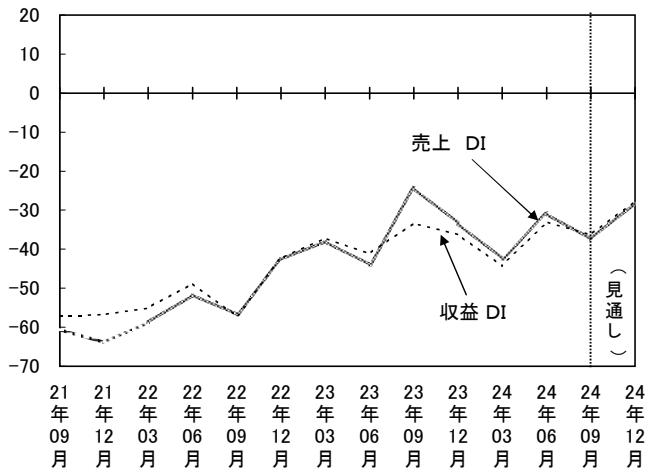
◆厳しい売上推移続く◆

第一位「売上の停滞・減少」が65.7%、第二位「競争の激化」が53.2%、第三位が「価格競争の進展」で41.8%となりました。
 「売上の停滞・減少」が、第二位を引き離して、圧倒的に大きな問題点として浮上しています。
 大手小売店など同業他社との価格競争は、一層激しさを増しています。新たな需要喚起策も期待できず、扱う商品でオリジナリティを出すなど大手量販店との差別化を図り、自店の特色を出していくことが必要です。
 (中小企業診断士：澤田、金澤)

飲食業 (91社)

家飲み増加！懸念される食材価格の上昇！

【売上受注・収益DIの推移】



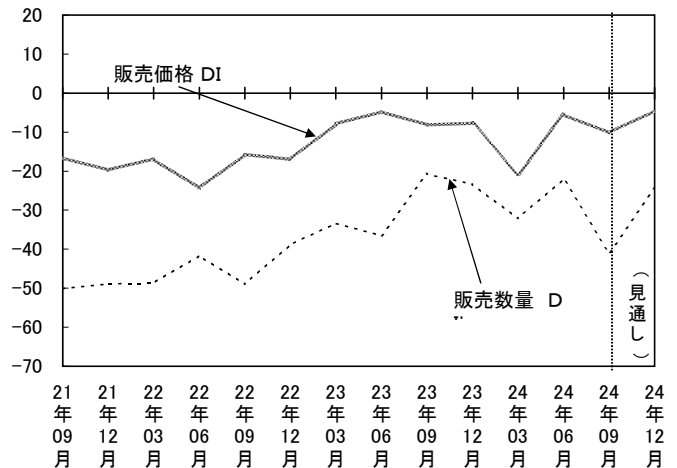
◆大型店に奪われる顧客◆

売上DIがマイナス37.4（前回比-6.5ポイント）、収益DIがマイナス36.3（前回比-3.3ポイント）となり、売上・収益DIともに下落しました。平成24年10-12月期は、売上DIが9.3ポイント、収益DIが8.6ポイント上昇すると予想しています。

飲食業は、買い物ができる食事もできる大型ショッピングセンターのフードコートに顧客を奪われています。夏の節電要請でこの傾向が一層強まり、顧客が減少したことが売上の減少に繋がったと思われます。また、消費者の家飲みする傾向が強まり、来店客は減少する傾向にあります。

しかし、忘年会など年末商戦への期待から、平成24年10-12月期の見通しでは大きく上向きました。

【販売価格・数量DIの推移】

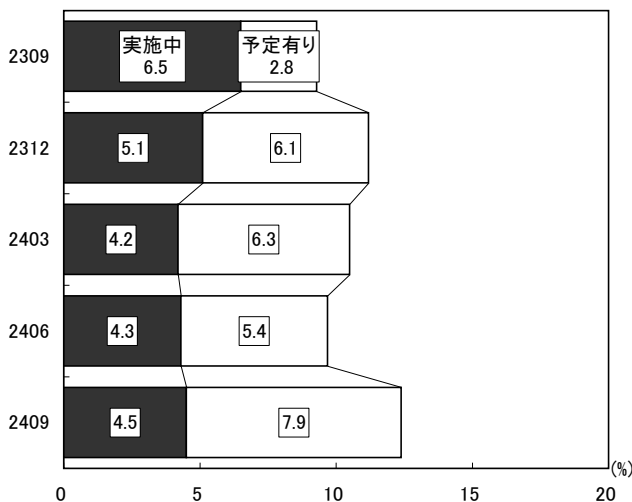


◆販売数量大きく下落◆

販売価格DIはマイナス10.2（前回比-4.7ポイント）、販売数量DIはマイナス41.0（前回比-19.0ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに下落しました。平成24年10-12月期は、販売価格DIが5.7ポイント・販売数量DIは16.5ポイント上昇すると予想しています。

大型ショッピングセンターのフードコートなどとの競争から、販売数量DIは大きく落込みました。消費者の家飲み傾向は、今後も強まると思われます。

【設備投資】

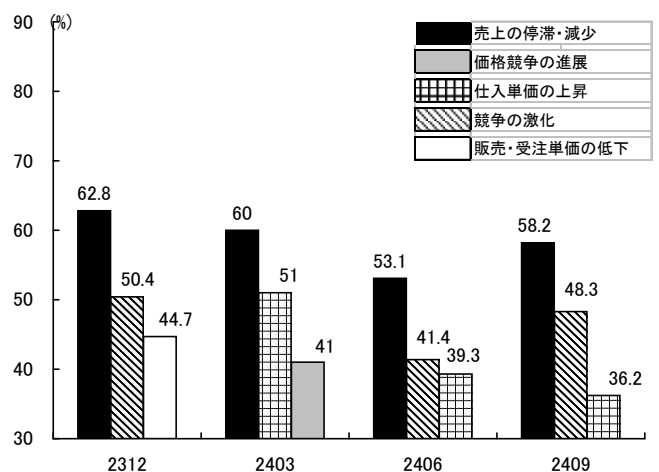


◆集客のための設備投資が増加◆

「実施中」は4.5%（前回比+0.2ポイント）、「予定有り」は7.9%（前回比+2.5ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は12.4%です。

飲食業では、掘りごたつや個室・半個室への店内レイアウトの変更など、消費者が店内で快適に過ごせるように改装を行う企業があり、設備投資は6月期から大きく上向いています。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆懸念される食材価格の上昇◆

第一位「売上の停滞・減少」が58.2%、第二位「競争の激化」が48.3%、第三位「仕入れ単価の上昇」36.2%となりました。

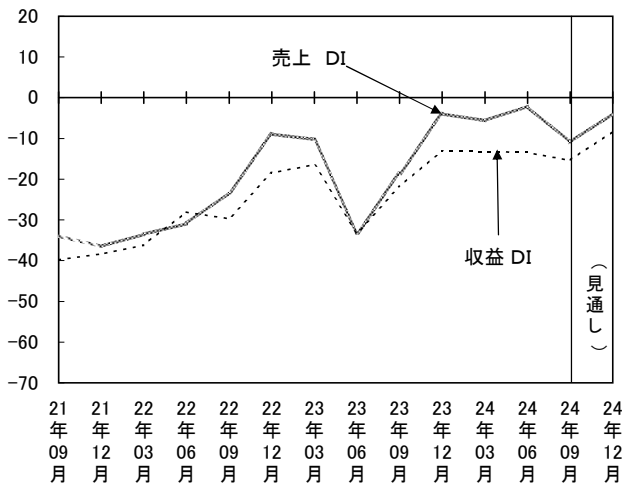
今後、業務用小麦粉や食用油、乳製品などの食材価格が上昇します。販売価格への転嫁が難しい中小企業では、収益性の悪化が懸念されます。

(中小企業診断士：兵庫、仲井、澤田)

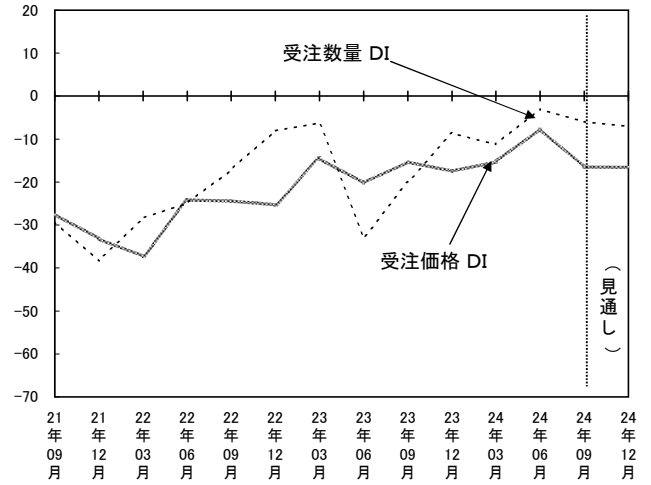
建設業 (180社)

売上DI下落！公共工事減少！消える政策効果！

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆公共工事少なく、売上DIは下落◆

売上受注DIはマイナス11.0（前回比-8.9ポイント）、収益DIはマイナス15.4（前回比-2.0ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。平成24年10-12月期は、売上DIは7.2ポイント、収益DIは7.1ポイントともに上昇すると予想しています。

公共工事は、件数・請負金額ともに前年比マイナスで推移しています。受注の大半は、小規模なリフォーム関連ですが、価格競争が激しく売上高の確保が困難企業もあります。復興需要の影響がほとんどない関西では、東日本に比較して景況感の回復が遅れています。

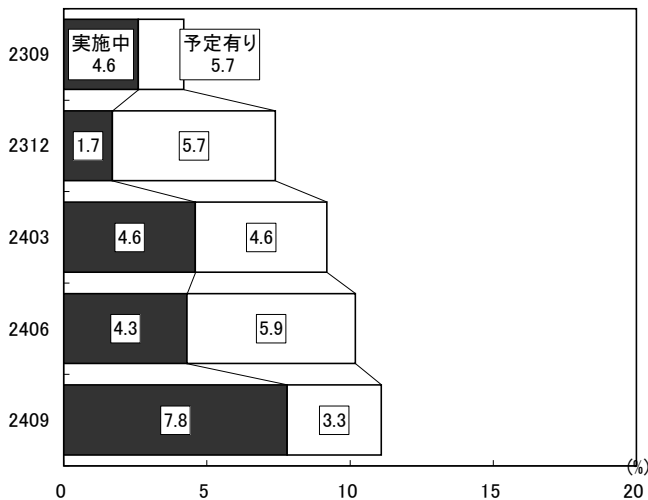
◆政策効果消える◆

受注価格DIはマイナス16.5（前回比-8.9ポイント）、受注数量DIはマイナス5.9（前回比-2.9ポイント）となり、受注価格・数量DIともに下落しました。平成24年10-12月期は、受注価格DIは0.1ポイント、受注数量DIは1.1ポイントともに下落すると予想しています。

受注数量DIの下落には、7月に住宅エコポイントが終了したことによる影響もあると思われます。

政策効果も消え、消費者は、住宅ローンが低金利であっても、景気の見通しが立たず、所得・雇用環境の改善が見られないために、住宅の購入は今後控えると思われます。

【設備投資】

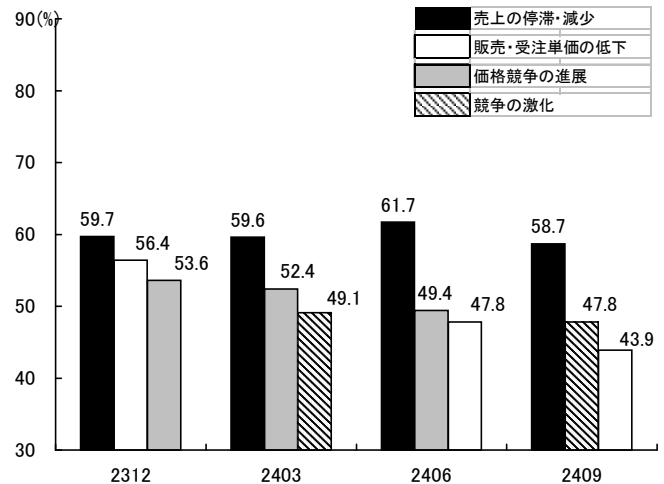


◆設備投資徐々に拡大◆

「実施中」は7.8%（前回比+3.5ポイント）、「予定有り」は3.3%（前回比-2.6ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は11.1%です。

設備投資は、過去1年間でも最も増加しました。建築機械や車両が老朽化して、新しい機械を購入する企業が増加していますが、設備の更新が一巡すれば再び減少すると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆急がれる政策実施◆

第一位「売上の停滞・減少」が58.7%、第二位「競争の激化」が47.8%、第三位「販売・受注単価の低下」が43.9%となりました。

建設業では、住宅エコポイント制度が終了し、今後受注量の減少と、同業他社との競争の激化により、業況は厳しいと思われます。

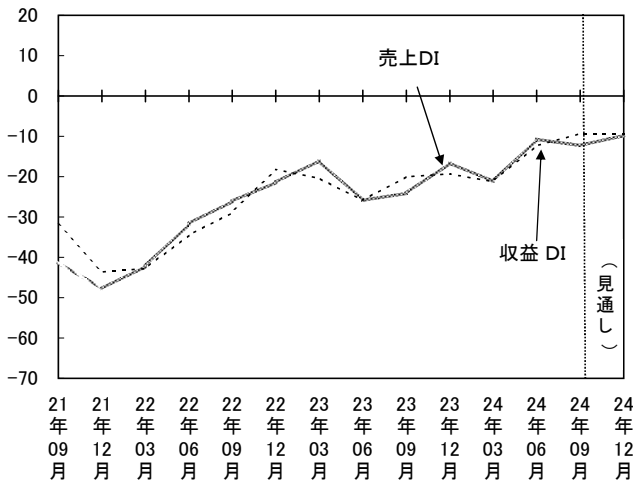
政府による住宅エコポイント制度の継続や、新たな景気浮揚施策の実行が待たれます。

(中小企業診断士：小林、井筒)

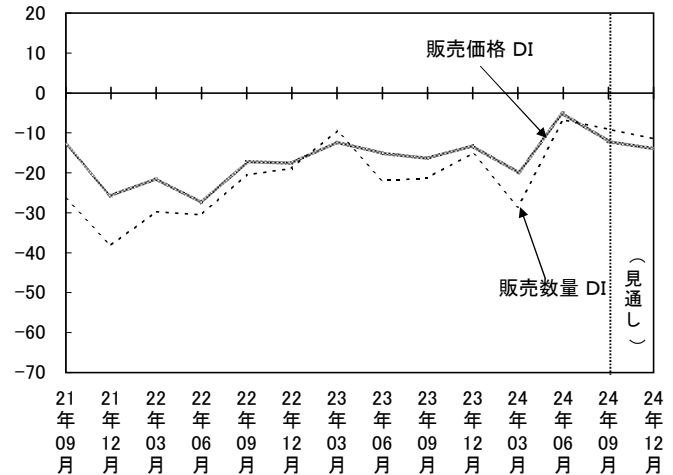
サービス業 (171社)

ソフト面で差別化を！熱心な社員教育！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



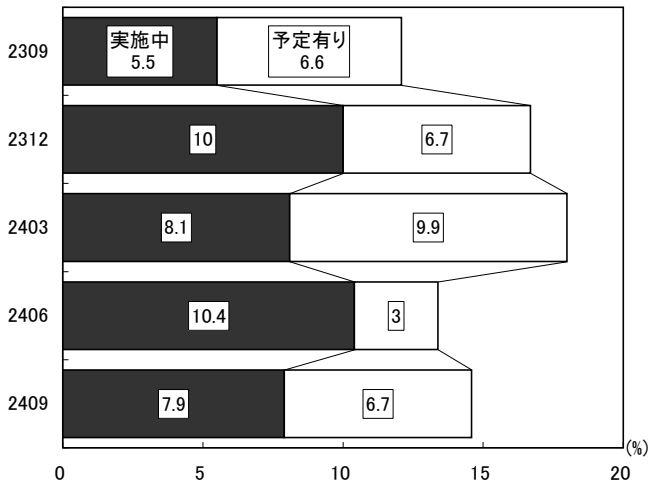
◆海外旅行は好調◆

売上DIはマイナス12.3（前回比-1.6ポイント）、収益DIはマイナス9.3（前回比+3.0ポイント）となり、売上DIは下落し収益DIは上昇しました。
 平成24年10-12月期は、売上DIが2.5ポイント上昇し、収益DIが0.1ポイント下落すると予想しています。
 旅行業では、日本から海外への旅行者が増加して売上が好調な企業があります。
 介護業や美容業などで、接客教育やクレーム対応に力を入れて、競合他社との差別化を図る動きが見られます。

◆苦戦するクリーニング需要◆

販売価格DIはマイナス12.1（前回比-7.0ポイント）、販売数量DIはマイナス9.0（前回比-2.3ポイント）となりました。平成24年10-12月期は、販売価格DIが1.9ポイント、販売数量DIが2.4ポイントそれぞれ下落すると予想しています。
 今後、旅行業では、日中関係の影響から中国からの観光客の減少が懸念されます。
 クリーニング業では、クールビズの普及によりスーツをあまり着ないために、夏場のクリーニング需要を直撃しているようです。

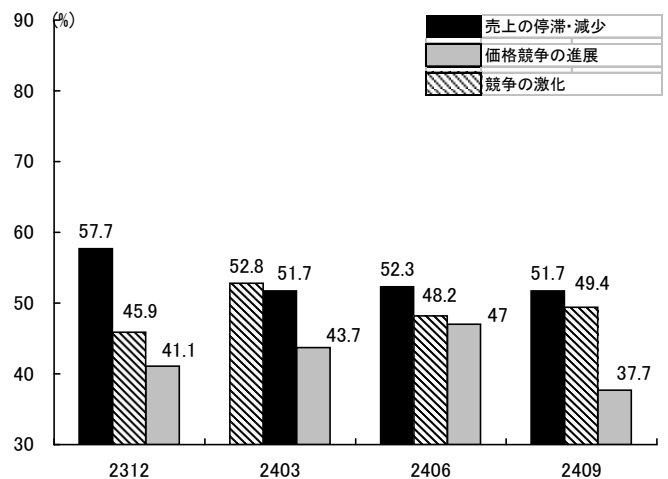
【設備投資】



◆心地よい空間の提供◆

「実施中」が7.9%（前回比-2.5ポイント）、「予定有り」が6.7%（前回比+3.7ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は14.6%となりました。
 サービス業では、接客などのソフト面に力を入れる一方、心地よい快適な空間の提供も重視して改装などを実施しており、他業種に比較して設備投資意欲は高く推移しています。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆社員教育を強化◆

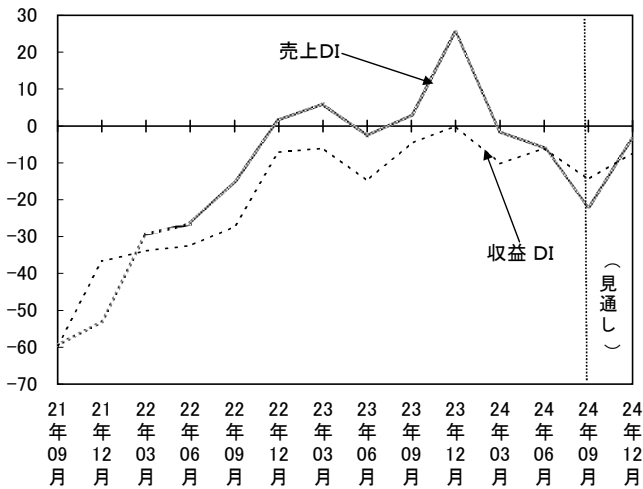
第一位は「売上の停滞・減少」が51.7%、第二位は「競争の激化」が49.4%、第三位は「価格競争の進展」が37.7%となりました。
 サービス業は、接客などソフト面で他社との差別化を図る方向にあり、社員教育を熱心に行う企業が増えています。
 同業他社との競争は、価格だけでなくサービス内容での競争が、今後激しくなると思われます。

(中小企業診断士：竹並、嶋田)

運輸業 (54社)

メーカーの不振が響く、鋼材運搬！

【売上受注・収益DIの推移】

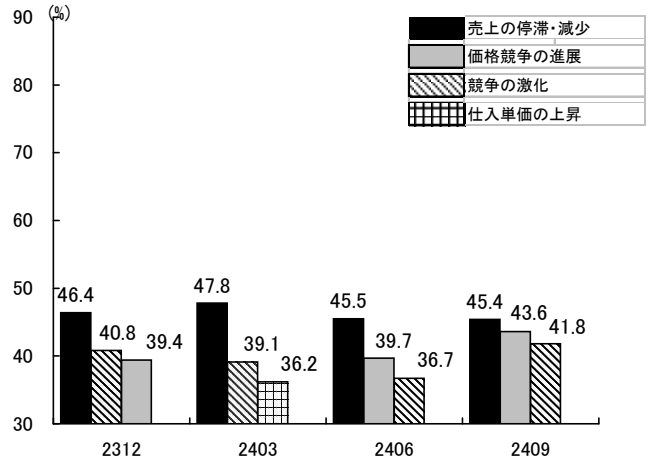


◆物流量減少◆

売上受注DIがマイナス21.8（前回比-15.8ポイント）、収益DIがマイナス14.5（前回比-8.5ポイント）と売上DI・収益DIともに下落しました。平成24年10-12月期は、売上DIが18.2ポイント、収益DIが7.2ポイント上昇すると予想しています。

関西は、円高による景気の低迷から物流量が減少し、売上DIが大きく下落したと思われます。運賃の引下げ要求や、昨今のガソリン価格の高騰に加え、環境税の導入などにより収益に悪影響を及ぼすことが懸念されます。平成24年10-12月の見通しでは、年末商戦に期待して売上DIが回復すると予想しています。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆進む価格競争◆

第一位「売上の停滞・減少」が45.4%、第二位は「価格競争の進展」が43.6%、第三位は「競争の激化」が41.8%と続きます。

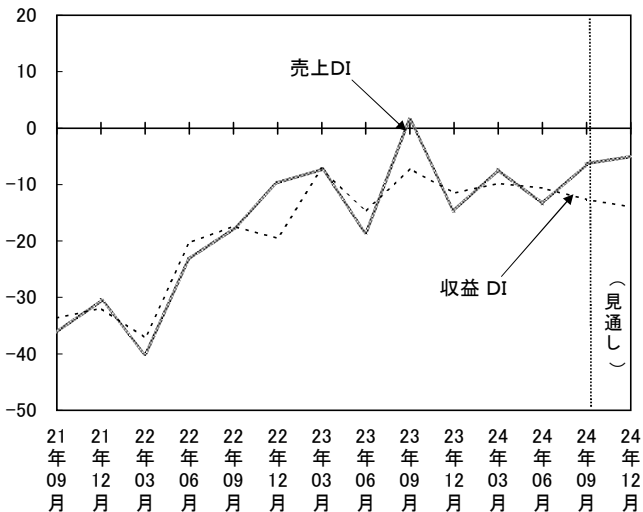
卸売業や建築業の売上DIの下落やガソリン価格の上昇が、運送業の景況に大きく影響しています。景気の回復が遅れ、受注の奪い合いで運賃の価格競争が一層激しくなっています。

(中小企業診断士：芝田、宗和)

不動産業 (79社)

品薄な収益物件！家賃引下げが収益を直撃！

【売上受注・収益DIの推移】

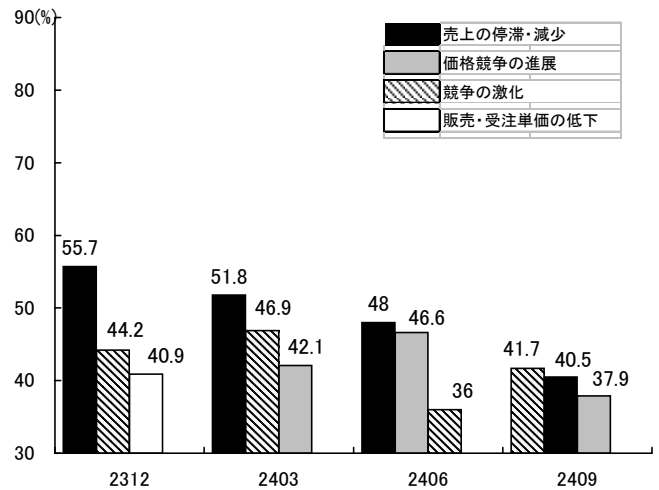


◆悪化する収益◆

売上DIはマイナス6.3（前回比+7.1ポイント）、収益DIはマイナス12.6（前回比-2.0ポイント）となり、売上DIは上昇し、収益DIは下落しました。平成24年10-12月期は、売上DIが1.3ポイント上昇し、収益DIは1.3ポイント下落すると予想しています。

収益物件では、品薄状態が続き、利回りが10%を超える物件は少ないようです。不動産賃貸業で、特にテナントビルを扱う業者では、家賃の下落が激しく景気の動向で空室率も上下して不安定なため、住宅用の収益物件へシフトする動きも一部には見られます。家賃の引下げにより空室率が回復しても、テナントビル全体の賃貸収入が減少し収益性が悪化する企業が増えています。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆「競争の激化」が第一位に◆

第一位「競争の激化」が41.7%、第二位は「売上の停滞・減少」が40.5%、第三位は「価格競争の進展」が37.9%となりました。

9月期は、「競争の激化」が、「売上の停滞・減少」を抑えて最大の問題点となりました。

収益物件を保有する企業では、老朽化物件は改装などはコスト高となるため、早めに売却して築浅の中古物件との入替えを進める企業があります。

(中小企業診断士：仲井、小倉)